

## 研究力強化に向けて

総合科学技術・イノベーション会議議員

橋本 和仁

上山 隆大

### 現状・課題

イノベーション創出に向けた政府の取組や大学改革により、一定程度の成果は出つつある。一方で、研究の現場ではひどい閉塞感。

原因： 将来の職への不安、不安定な研究資金、競争的研究費の獲得・評価などに関わる時間の増加、研究時間の減少

研究力強化に向けて、早急に研究者の研究環境を再構築することが必要。

### 1. 若手研究者の研究環境、キャリアパス

世界をリードする研究者を目指す若手研究者には一定期間（例えば10年間）研究に専念できる環境を用意することが必要。

- ・ 自由な発想で挑戦的な研究に取り組む資金を確保する。
- ・ 自らの研究に専念できる時間を確保する。
- ・ 自らの研究以外の申請書執筆に時間を取らせない。

⇒ 実績を積んだ研究者は外部資金を積極的に獲得し、そこから生み出した財源をポテンシャルのある若手に循環させる仕組みを大学が構築すべき。

産業界をはじめ様々な分野で活躍できるよう、インターンシップや若手研究者のキャリアパスの拡大が必要。

⇒ 産業界の研究職、起業家、リサーチアドミニストレーター、エンジニア職なども含めた施策づくり

### 2. 研究者の処遇の在り方

我が国の大学が、世界をリードする国内外のトップ研究者を集めるためには、実質的に給与水準を引き上げる仕組みが必要。

- ・ 例えば、UC サンディエゴでは、州立であっても、9ヶ月の公的資金の給与に加え、民間資金も含めてプラス6ヶ月分の金額を補填するなど、給与水準を上げる取組を実施。
- ・ 日本の国立大学でも、例えば、民間企業とのクローポにより2000万円を超える給与を受け取ることも可能。運営費交付金が浮いた分を若手に回すことも可能。

⇒ 横並び意識から脱却し、外部資金を獲得して給与水準を実質的に引き上げる制度を標準装備とすべき。

### 3. 研究費改革

競争的研究費の一体的改革により、真摯に研究に取り組む研究者には最低限の研究資金が得られ、優れた成果を出した研究者には継続的に研究資金が獲得できる制度を構築することが必要。

- ・ 競争的研究費の一部を若手研究者の給与等の財源に活用できる仕組みの構築
- ・ 競争的研究費の申請書類・評価等の抜本的な簡素化
- ・ 自由な発想で挑戦的な研究に取り組む資金を確保（再掲）
- ・ 競争的研究費の一体的改革により、競争的研究費の「全体最適」を実現